

## 高津区おはなしアーカイブ

●小池 克利（こいけ かつとし）さん

昭和18年生まれ 70歳

川崎市高津区二子在住



### ◆ご自身と地元をつなぐは

小池家の11代目になります。本家は亀屋という旅館を経営していました。2000坪あり、明治天皇の皇后がお泊りになったと聞いています。うちは、分家で祖父が米屋です。昭和16年から酒屋になり、自分が中学生のときには、燃料なども取り扱っていました。練炭、炭団、豆炭などを

従業員が自転車にリヤカーを繋いで運んでいるとき、子どもだったのでそのリヤカーに乗らせてもらいました。うちの屋号は「新家」（しんや）と言います。「しんやのボクちゃん」と呼ばれていました。川崎で3番目に古い高津小学校卒業後は、東京の中学に通いました。小学校の仲間はだいたい西高津中学の1期生ですが、その親しい彼らに呼ばれて今でも、ここの中学の同期会には参加しています。

19歳のときに父が亡くなり、店を継ぎました。現在、酒屋は閉めマンションに立て替え、二子第3町内会長を務めています。

### ◆どんなご家族でしたか

祖父、両親、姉、弟2人で住んでいました。祖父が町会議員で、当時は、納税者だけに参政権があったそうです。特に教育者であった祖父に育てられた父は、高津小学校卒業後、玉電に乗って渋谷駅で乗換え、神田の中学に通っていました。完全な東京モンで、私が中学のときには「ナイフとフォークを使ってマナーを覚えろ」と言われました。

た。当時、カレーライスを食べるときには珍しいソースポットを使っていました。

私の姉、弟たちは皆、頭が良くて勉強を教えあったりしました。

父が亡くなったとき、すでに姉は大学を卒業していましたが、私は、父の遺言に従い19歳で学校を辞めて店を守り、2人の弟たちを大学まで卒業させました。

親や親戚など、私の回りは早世の人が多く、今40名以上の名前が刻まれた小池家の墓碑を守っています。

### ◆子どもの頃の遊びは

とにかく冬でも外でドッジボールでした。授業の休み時間は5人对5人で馬飛びです。体を折り曲げ、馬の背になって1列を作り、そこに相手側が飛んできます。特に弱そうな子の上にドンと跳んで列をくずすのですが、誰もケガをしなかったなあ。今なら骨折かもしれません。

ベーゴマ、けん玉はもちろん、缶けり、凧揚げなんかもありました。でも、何もなくても遊べました。自転車のタイヤのゴムを竹の棒でクル

クル回して走るだけの「リム回し」でも充分楽しかったです。

プールはありませんから、多摩川のほとりにある製菓会社の前で泳ぎました。魚釣りに関しては、小学校のときは「あんま釣り」と言つて小さな竹ざおを使って魚の鮠(はや)を獲つて食べました。中学になると、投網を子ども用に作つてもらい、鮎を獲りました。今では禁止ですよ。

暑くてもアイスなどないから、お腹が空けば梨畑から梨をいただきました。きゅうりのときは、半分に折つて汗だらけの顔を一回りさせて、塩味をつけて食べました(笑)。昔は、今はない桃畑もありました。

神社には、紙芝居屋が来ていました。そこで水アメやバクダンを食べました。バクダンとは、お米が弾けてできるお菓子で、今で言うシリアルでしょうか。

◆その神社のお祭りについてお話を聞かせください

お御輿を担いで、お神酒所で休憩するとき、お菓子の代わりにふかし芋をもらえました。全部食べられなくて、半纏の中に入れておくと芋がベツタリとお腹のあたりで潰れていました。綿アメ、お面、ヨーヨー、金魚すくいなどの店がありました。特に印象に残っているのが、ヒモのくじです。

3本のヒモのどれかについている5円玉を引くのですが、これがまったく当たらない。練習のときには必ず当たるのですが。神社の裏とか暗いところで店を出していたから、なんだか怪しいなあとも今でも思っていますよ。当時のお年玉の千円で駄菓子を全部買った子もいました。

#### ◆小学校時代の様子はいかがでしたか

自分が高津小学校1年の2学期に東高津小学校が、また、5年生くらいのときに久本小学校ができたと思います。

私が入学したときの校長先生は母の小学校時代の担任の先生でした。全校生徒は2400人以上いました。なぜなら、1学年は基本的に50人が8クラスということでしたが、1クラスに58人

くらい詰め込まれていたと思います。それくらい、溝の口や二子の人口が多かったですね。

ひと夏に林間学校や臨海学校があり、その他には修学旅行もありました。

山は、箱根や大山登山、海は真鶴の先の吉浜海岸に行きました。4年になると学校の講堂に泊まり、キャンプファイヤーの練習をしました。宿泊所は、仙石原小学校やお寺でしたが、日光だけは旅館でした。当時はお米持参です。

5、6年生のときに、合唱クラブがあつて、私たちはNHKなどに歌いに行き、鉛筆を1本もらつてきたりしていました。しかし、時間的に忙しくて父はいつも怒っていました。小学校唱歌や川崎市歌を歌っていましたが、私は上手くないので先生に口パクでよいと言われていました(笑)。

地域には、今の「子ども会」の前身のような「地区児童会」がありました。1年から6年まで一緒に勉強したり、道路の掃除をしたりして正月は校庭で羽根つき大会をしました。学校に「子ども貯金」というのもあったなあ。自分で入金していましたが、いったい、あれはその後どうなったのかなと思いますよ。

給食のメニューは、脱脂粉乳、くじら肉のカツ、コッペパン、揚げパンなどでした。アルマイトの皿と箸を入れた給食袋を毎日、ランドセルの横に下げて学校に持って行きました。

上履きは、草履や下駄の子がいました。万年草履と言っていました。

6年生のときにビーチサンダルが初めて発売されました。

#### ◆特に思い出になっていることはありませんか

よく用務員さんの部屋に遊びに行きました。宿直小屋というのでしょうか。その練炭だか薪ストープに運動靴の底のゴムの部分をくつつけて柔らかくなったら、ゴムの匂いを嗅いで喜んでいました。5円玉を熱くして、女の子に「ほら、握ってごらんよ」とか言っただけでした。

当時は今のようないじめはなく、大人がどんな子でも悪いことすれば、叱りつけていました。自分の弟が、先生に殴られたときがあったのですが、先生がうちに謝りに来たとき「いやー、うちの子が悪いんですから」と親が言っていました。先生に

怒られたと親に言うと、そこでまたもう一回親から殴られましたから、言えませんよ。

小さなときは先生たちが、実際の年令よりも、もっと年上に見えました。

#### ◆町の様子はどうでしたか

本家の亀屋旅館の前には「亀の前だから」という意味で「鶴亀」の「鶴」の字をとって「つるや商店」という日用雑貨店がありました。亀屋旅館がなくなると相撲部屋の人が「リバーサイド」といダンスホールを建てました。

昭和23年頃にはダンスホールがなくなり、靴屋、肉屋、無線屋などが軒を並べ、マーケットができました。大山街道沿いの店の子に友人も多かったのですが、店がなくなると寺の住職のような子以外、自然と彼らもどこかへいなくなっていました。

昭和39年、高津・宮前には酒屋が48軒ありました。しかし、料亭が消えていくと同時に、やはり商売も難しくなりました。料亭は特級酒しか出していなかったですねえ。

今は日本酒の銘柄で地元産の「高津」や梅酒の「梅仙」がありますよ。

大山街道が舗装道路になったのは、3年生のときでした。馬糞を牛車で久地の畑に運びました。

子どもの頃は、馬糞を踏むと背が伸びると言われたもんです。昔は、東京の人糞を汲み取って、二子の渡しを使って、農地に運んだと聞いています。電車が通ったのは大正13年です。

#### ◆当時の町の人々の暮らしは

昭和18年に水道が引かれました。台所にはかまどがありました。丸いちやぶ台を囲み、家族で食事をしました。当時のお風呂は薪をくべるので、温度調節が大変でしたが、中学になったら、プロパンに代わりました。父が新しいもの好きでしたから、昭和29年にはすでにテレビが我が家になりました。近所中の人々が50人くらいプロレス中継を見に集まり、なかなか寝られなかったのを覚えています。

(平成25年9月19日)